

看護あきた

Nursing Akita

Vol. 110

平成24年度 3号
公益社団法人秋田県看護協会会報

- 1 第39回秋田県看護学会
- 3 シリーズ認定看護師 こまち紹介
- 4 シリーズ看護部長が看護の想いを語る
- 5 地区活動報告
- 7 シリーズ地域看護
- 8 ワークライフバランス推進
ワークショップを開催
- 9 看護の出前授業
- 10 平成24年度地区別法人委員会〔北海道・東北〕秋田で開催
- 11 平成24年度災害支援ナース育成講習会報告
- 12 平成24年度認定看護師交流会報告
- 13 平成24年度環境・保健事業功労者表彰
- 14 平成25年度改選役員及び推薦委員の立候補並びに推薦について
- 15 事務局からのお知らせ



第39回
秋田県看護学会

平成24年度会員数(9月30日現在) 6,893名

保健師 280名 助産師 316名 看護師 5,971名 准看護師 296名

メインテーマ 看護職の可能性



日 時 平成24年11月9日(金)
9:00~15:30

場 所 秋田県総合保健センター



日 程 9:40~11:10 特別講演
11:15~12:00 一般演題発表 口演3題
13:00~13:30 一般演題発表 示説6題
13:30~15:15 一般演題発表 口演7題

参 加 者 198名(会員197名・非会員1名)



烏トキエ会長 挨拶

第39回看護学会は、秋田県看護協会が公益社団法人になって初めての記念すべき学会となる。開催にあたり、ご尽力いただいた方々に感謝申し上げます。本学会のテーマは、昨年引き続き「看護職の可能性」とした。今、日本は少子高齢化が深刻な問題となっている。そのなかでも、秋田県は日本一の高齢県となっており、高齢化率が30%に近い。

このような中で、看護職には大きな期待が寄せられ、勤務場所や業務範囲の拡大に繋がっている。またグローバルな社会の中で、国外における看護職の可能性もますます高まるものと思われる。本日は夏原先生の外国における研究活動や様々な体験談から、人間として看護職として多くの学びがあると思う。皆さまには、本日の学会における知見や成果を実践の場に活用していただきたい。

最後に来年度は、秋田県で「支えつなく看護の未来」をテーマに、日本看護学会一成人看護II一学術集會が開催される。皆さまにたくさんの演題の応募と参加をお願いしたい。



夏原和美氏

職歴

東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻国際生物医学科学講座助手・福岡県立大学看護学部地域・国際看護学講座准教授を経て、2011年4月より日本赤十字秋田看護大学・大学院教授として活躍中です。

特別講演

「人間の可能性」

日本赤十字秋田看護大学大学院 看護学研究科

教授 夏原和美氏

内容

人類生態学とはどんな学問だろうと関心を持って聞かせて頂いた。難しい内容であろうと思っていたが、分かりやすい内容で会場からは時々笑いが漏れたり、スライドにどよめいたり関心の高い事が伝わった。

自分の存在価値に疑問を感じ不登校になった高校時代から、マザーテレサに会いたいという気持ちでインドに行ったこと、インドでの出会いやそこの気づきなどを写真を示しながらお話しにいられた。さらに、他の国に関わりを持てる職業に就きたいと思ったことが、ご自身が看護師を目指すきっかけになったことも話された。

先生自身は研究で現地に入っているという事であったが大勢の現地の方々に家族同然に受け入れられている事に先生のお人柄がうかがえた。ご講演が終わった後、何とも言えない「講演、良かったなあ」という温かい思いが参加者全体に残った。又、講演の進行の仕方が研究の進め方そのものであると実感した。

研究で探る人間の可能性

人類生態学の研究について、バプアニューギニアで行ってきた研究のことや現地の人たちとの交流について話された。現地の生活の様子は、今の日本では想像のつかないものであったが、集落に暮らす人たちがお互い食べ物を分けあったり、子供達をみんなで育てているという環境は、以前日本でもあった環境であり、現代の希薄な地域社会に不足しているものだと感じた。また、研究におけるフィールドワークについて「大事なものは、問題を発見し明確な課題として提起する能力。なぜ、どうしてという疑問やこだわりを徹底的に大切にすること」と説明され、看護においても同じことがいえると示された。最後はマザーテレサの日々の言葉を伝えて講演が終了した。

～マザーテレサの日々の言葉～

私たちのしていることは、大海の一滴に過ぎないと感じています。

けれど、もし、その一滴がなければ、海はその一滴分、確かに少ないということです。

私たちは、数や量では考えません。いつもその時にたった一人の人を愛し、どんな時でも、いつも一人のその人に集中してお世話をしているのです。

演題発表

ほぼ満席の会場のなか、10題の口演発表が行われた。フロアでは、それぞれの発表を熱心にきいている姿や質問する姿がみられ、有意義な時間となった。また、若い発表者も多く、これからの看護職の可能性がますます広がっていく未来が展望できた。

2会場に分かれてそれぞれ3題ずつ行われた示説発表は、わかりやすいポスターや写真等で経過を示すという工夫がされており、発表後には、活発に交流する姿がみられた。

アンケート結果

参加者198人、回収数:154人 回収率:74%

1.参加者の年代

年代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
人数	36	40	36	40	2	154

2.職種

職種	保健師	助産師	看護師
人数	3	6	141
職種	准看護師	看護学生	計
人数	4	0	154

3.この学会に参加した動機について(複数回答)

①研究内容に興味があった。	50人
②特別講演に興味があった。	18人
③両方に興味があった。	45人
④その他	46人

4.「研究発表は参考になりましたか」についての意見(一部抜粋)

【20代】

キャリアアビジョンや褥瘡についての研究もあり、参考になる発表が聞けて良かった。

研究のまとめ方・発表の仕方を学ぶことができ、参考になった。いろいろな援助が行なわれていることを知ることができた。

現場で実際に経験した事例に近い内容の発表もあり、有意義な口演となった。

【30代】

今の現場に繋がる内容もあり、参考になった。

貴重な症例や支援の在り方など、勉強になった。しかし学会という場において事例検討やケースレポートの発表が多いと感じた。もっとレベルアップした演題だと良いと思う

【40代】

全題すばらしい発表で勉強になりました。忙しい業務の合間にみなさん頑張ってます。

【50代】

示説発表で、おむつ交換による汚染状況を視覚的に確認できる方法、蛍光剤の使用は「手洗い」の確認実習によく使用されるが、おむつ交換手技に使用したことは新鮮であった。是非活用したい。

5.「特別講演は参考になりましたか」についての意見(一部抜粋)

【20代】

看護もフィールドワークだという、現場で感じたこと、疑問に思ったことを大切に、それを明確な課題として提示していくことが重要なのだと学ぶことができました。

【30代】

看護教育に携わる以前の経験や、グローバルな経験、研究、生き方、全てが素晴らしく、自分が学生の時にこういう方の指導があれば違ったのかもと思いました。

【40代】

看護師としての活動の場は幅広く、地道に目に見えない活動の大切なこと、コツコツそれを行う事の大切さを学びました。

【50代】

いろいろな価値観がある事を知って良かった。

【60代】

現場をみることの大切さと困難を乗り越える勇気をいただくことができた。

(記事 広報委員 藤田直)

「こまち」紹介

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける認定看護師さんを紹介します。

茂内 陽子さん

こまち File No.23

JA 秋田厚生連 山本組合総合病院
感染管理認定看護師



今取り組んでいること

私は感染対策室の専従看護師として日々活動しています。感染は予防が第一ですので、今まさに流行を迎えるインフルエンザやノロウイルスに備えた活動を重点的に行っています。今年からは近隣の介護施設で働く方々にも研修会にご参加いただき、地域で連携した対応がとれるよう取り組んでいます。また、患者教育の一環として外来待ち時間を利用した「地域の皆さまへのワンポイントレッスン」と称した感染予防の講習会を開催しています。

皆と一緒にがんばりたいと思っていますこと

今まで感染対策チームの下部組織として看護部主導の感染リンクナース委員会がありました。しかし、感染対策は全職員が共通認識のもと取り組んではじめて効果が発揮されます。そこで、感染対策を実行あるものにするために、全職種から成る感染リンクスタッフを立ち上げました。これからは職種の垣根を越えた連携した取り組みを目指したいと思っています。



柴田 亮子さん

こまち File No.24

JA 秋田厚生連 平鹿総合病院
脳卒中リハビリテーション認定看護師



今取り組んでいること

当院は秋田県南部の横手二次医療圏において、地域中核病院として急性期医療を中心に行っています。現在は、脳卒中センター・急性期に所属し、病棟全体にわたり定期的に実践につなげられる、リハビリを邪魔しないおむつの当て方、急性期における個別性のあるポジショニング、摂食嚥下訓練など多様な研修会を行い、それに関する実践のフォローを現場で行っています。今年度、特に力を入れていることは「摂食機能療法」の積極的な実用化に向けた活動です。急性期から食べられる口作りを行い、経

口摂取が可能となるよう、摂食嚥下の評価・訓練プログラムを作成し、いづれ院内全体での活用を目指しています。

皆と一緒にがんばりたいと思っていますこと

脳卒中を患い、突然に日常生活が一変される患者さんのために、24時間一番近くにいる私たち看護師ができる「食べられるための口作り」、排泄自立のための訓練などのベッドサイドケアの充実化を、一緒に考え実践していきたいと思っています。研修会などを通し、ケアの実践において「難しい、大変」と思われたい、楽しく回復を支えられるよう、指導や根拠の提供を行い、共に実践力を高めたいと思っています。



看護部長が 看護の想いを語る

人を大切にできる感性を磨くことが大事



No. 7 秋田赤十字病院
看護部長

神田和樹子さん

組織に対する想い

当院は救命救急センターや総合周産期母子医療センター、神経病センターなど秋田県の政策医療を担う急性期病院、がん地域診療連携拠点病院、災害拠点病院等、多くの機能を持ち、ドクターヘリ事業も加わり地域の中核病院としての役割も責任も重くなってきました。赤十字の使命である救護活動では、国内および国際救護活動に取り組んでいます。

当院は平成26年には創立100周年を迎えます。歴史に学び未来に成長できる組織、地域社会から、職員から愛される組織となるように、秋田赤十字病院の使命、機能、役割を果たすために、職員と一緒に力を合わせて奮闘する日々です。

看護に対する想い

明日は修学旅行という中学生の息子さんが持っていくものをベッドに広げ、鞆に詰め込む様子を妻と一緒に目を細め笑顔で見守ったが

ん末期の患者さん。ベッド一つが家族の生活空間でした。

準夜、即日入院、一人では身動きができず不安で30分毎にナースコールする患者さん。29分毎に訪室すること数回、笑顔で「安心していいんだね」と眠ってくださいました。

右半身マヒがあり、インスリン注射を受け入れることができず大泣きした糖尿病患者さん。毎日毎朝一緒に練習して習得できたときは抱き合って喜びました。

スキントラブル多発に創意工夫で取り組んだストーマケア。患者さんからも家族からもスタッフからも「神田さんお願い」という指名が嬉しかった。

亡くなりつつある患者さんが「頬が冷たい」と言う。両手で温めるしかできなかった新人の頃から日々の看護の中で多くのことを学び、感動し、臨床の素晴らしさを体験してきました。OJTです。そして、多くの方々から熱く厳しい指導・助言や支援をたくさんいただきました。心の支えです。看護は、相手を理解し、手と目と頭を使い、心をこめて病む人々の力になり、ひとり一人に適切に対処、支援すること。誠実に、真摯に、感謝をこめてすることだと考えています。看護は一人ではできません。医療チームの一員としてコミュニケーションよく専門職としての能力を発揮するために支えあう環境づくりが管理する上で重要です。誰にも同様の臨床経験があると思います。ひとつひとつを大事に育み、伝えていくことが大事だと思います。

伝えたいこと(メッセージ)

医療の進歩、IT社会、情報過多、データ偏重、マニュアル依存、専門領域重視、医療崩壊など激動、変動の医療・看護の現場ですが、基本を大切に、看護とは何かを問い続け、人間に人間として関わる、人を大切にできる感性を磨くことが大事だと思います。





大館 地区支部

大館地区支部 田村 チエ子

「研修会」

平成24年6月30日、「認定看護師の活動」をテーマに、研修会を行いました。大館市立総合病院 がん化学療法看護認定看護師 浪岡恭子様より「がん化学療法看護認定看護師の役割～現在の活動状況とこれから頑張りたいこと」、大館市立扇田病院 緩和ケア認定看護師 北林もも子様より「緩和ケア認定看護師について」、ご講演をしていただきました。参加者数は48名（会員45名、非会員1名、看護学生2名）で、参加者からは、「地域の看護レベルアップのためにも認定看護師の活躍が必要と感じた」「看護とは何か？を考えさせられた時間でした」などの意見が聞かれ、充実した内容の研修でした。また、認定看護師の活動を知ってもらう良い機会になり、今後、認定看護師を目指す方達への動機づけにもなったと思います。認定看護師の方々のこれからの活躍に大いに期待しています。



「まちの保健室in第25回 大館ボランティアフェスティバル」

平成24年10月7日、秋田県北部老人福祉総合エリアで行いました。例年行っている「血圧測定」「体脂肪率測定」「健康相談」「ちびっこナース写真撮影」「高齢者・障害者模擬体験」に加え、今年度は、ホスピス緩和ケア週間ということもあり、大館市立扇田病院 緩和ケア認定看護師 北林もも子様の協力を得て、緩和ケアの啓蒙・普及の目的で「ポスター展示」「緩和ケア啓発資料の配布」「DVD鑑賞会」も行われました。約200名の参加者を集め、好評に終了しました。

今後も専門職としてのレベルアップのために、研修会を企画していくとともに、市民の方に貢献していけるよう活動していきたいと考えています。



大仙・仙北 地区支部

大仙・仙北地区支部長 北村 美恵子

「ふれあい看護体験」

7月24・25日地区支部管内3病院のご協力のもとに地域の高校生を対象としたふれあい看護体験を行いました。参加人数は24日大曲中通病院21名、25日仙北組合総合病院20名、市立角館総合病院14名でした。参加した高校生は白衣に着替え先輩の看護体験発表や看護師になるための教育制度などについて少し緊張した様子で聞いていました。看護体験実習では、患者様の話を聞きながら体を拭いたり、手足を洗ったり、昼食のお世話などを体験しました。患者様からの「ありがとう」の言葉に笑顔が見られ、「看護の道に進みたい気持ちが強くなった」という感想も聞かれました。

今後も多くの学生が看護師の仕事を理解し、看護師の仲間となり一緒に働けるように継続していきたいと思っています。



由利本荘・にかほ 地区支部

由利本荘・にかほ地区支部 佐々木 美恵子

由利本荘・にかほ地区支部では、9月22日会員の親睦、交流を図る目的で由利組合総合病院講堂で交流会を開催しました。今年は皮膚・排泄ケア認定看護師の武田美幸先生による「褥瘡予防のためのスキンケアと局所ケア」のテーマで講演を1時間ほど行っていただき、その後講師の武田先生を囲んでの軽食付きで交流会を行いました。講演では皮膚の構造と生理、基本的なケアの実際といった基本的な事、そしてケアに必要な材料や商品の紹介などと大変わかりやすい内容でほとんどの参加者が興味をもち満足された講演であったと思われます。また、交流会では講師の先生への質問が活発にされていたり、会員どうし和やかに会話もされとても充実した交流が図れたと思います。参加人数は役員を含め42名とやや少なめではありましたが、祭日のためかとも悩みましたが、アンケートの中では休日なので参加できたという方もおり、今後も日時等については検討していく必要があると思っております。昨年度は交流会はありませんでしたが、会員が楽しめて、そして普段の会員の声が直接きける交流会は今回の会場の雰囲気や会員の表情をみてとても大切に必要の事業であると強く感じました。来年度は当地区支部の特徴をとり入れた交流会を行いたいと役員の願望も膨らみました。今後も地区支部の交流を図るといふ大切な行事の一つとして、交流会は継続していきたいと思っております。

今回場所を提供して下さった施設、そして講演を



してくださった武田美幸先生、それから何より参加してくださった方々に感謝を申し上げたいと思います。

「まちの保健室」

9月14日午後大仙市のイオンモール大曲「花火の広場」で開催しました。今年度はイオンモール大曲のご好意により店内の広場をお借りし、屋内で行なうことができました。地域住民の健康相談、介護相談、血圧測定、体脂肪測定、モデルを用いた乳癌自己検診、ちびっこナース写真撮影、パンフレットや看護協会のグッズ、ペットボトルのプレゼントなどを行ないました。平日にも関わらず大人130名、子供13名と多くの方が興味を示し、健康に関心が高いことが伺えました。

次年度も地域住民の健康増進のため活動していきたいと思っております。



地域 看護

地域を支え、
つなぎあう
看護職の活動を紹介します。



地域の歯科口腔保健対策紹介 ～8020よい歯のお年寄り表彰事業～

平鹿地域振興局福祉環境部

保健師 高橋 恭子さん

前回に引き続き「保健師」です。秋田県平鹿地域振興局福祉環境部(横手保健所)に勤務しています。

当保健所の保健師は、全部で8名。企画福祉課では、精神障害をはじめとする障害者に関することや、学生実習・調整に関することなどを3名の保健師が担当しております。健康・予防課では、健康危機管理・感染症・がん対策・自殺予防対策・母子保健・歯科保健・難病に関することなどを5人の保健師が担当しております。

保健所での仕事は、様々な機関の様々な方々との連携が欠かせません。そのため、誰がどこでどんなことをしているのか、情報収集も大事な仕事です。

そんな保健所保健師の仕事の中で、今回は、私の担当している歯科保健の部分を少しご紹介いたします。

歯科保健というと、虫歯予防を連想しませんか？確かに虫歯予防は歯科保健の大きな対策の一つです。そのおかげで子どもたちの虫歯が減り、さらに秋田県ではフッ素洗口を推進しているため、今後も虫歯は減っていくことでしょう。

しかし、歯科保健は妊婦さん・赤ちゃんから高齢者までとまだまだ様々な問題があり、対策があり、課題があるのです。

「8020運動」というのを聞いたことがありますか？これは、「80歳まで20本以上自分の歯を保とう」という平成元年に始まった運動です。20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足することができると言われていました。8020達成者の割合は、運動開始当初は7%程度でしたが、平成19年には25%を突破しました。

秋田県では、そんな8020達成者を表彰する、「8020よい歯のお年寄り表彰事業」を行っております。横手平鹿

地域では平成24年度は19名の応募がありました(人口から見るとまだまだいそいそですが)。9月12日に行った、横手平鹿地区診査会には12名の方々が参加されました。お集まりの方々の、お元気なこと！これが80歳以上？と言うぐらい！まず背中がしゃんとし、顔色も良く、笑顔のときにちらりと覗く歯はもちろん自分のもの。参加者の中から地区代表者として選ばれた方は、ご自分の歯が26本。多少の治療はしているものの、定期的にクリーニングしてもらい、とても歯を大事にしていってました。以前8020達成者の方々に、歯があつて良かったことを尋ねたときには、「何でもおいしく食べられること」という声が多かったです。まさしく、8020運動の目指す姿です。

最近は歯だけでなく、お口の健康が全身の健康にも影響するという話題が聞かれるようになり、歯科保健というより歯科口腔保健としての対策が求められてきています。現在、他職種としては歯科医師・歯科衛生士・介護関係職員との連携が中心ですが、今後は看護職の方々や他の職種の方々と連携をしながら、地域の歯科口腔保健対策をすすめていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



左が私です

WORKLIFE BALANCE

看護職が働きつづけられる職場づくりを目指し ワーク・ライフ・バランス推進 ワークショップを開催

看護職のワーク・ライフ・バランス推進 ワークショップ in 秋田



「看護職の人たちが働きやすい職場づくりに向けて忌憚なく話し合うことが大事。今回のワークショップを契機にワーク・ライフ・バランスを県内医療機関に広く普及を！」

秋田県看護協会 烏会長

秋田県看護協会は日本看護協会と協働し看護職の「はたらきつづけられる職場づくり」を目指して8月21日22日の2日間、WLBワークショップを開催しました。当日は参加施設である中通総合病院・秋田緑ヶ丘病院・秋田県成人病医療センターの看護部長はじめ、各病院のWLB推進チーム・事務担当の方が参加、他にオブザーバー参加者も含め50人余りが参加して行われました。ワークショップはWLBについての講義研修の後、それぞれのグループに分かれて事前に行ったインデックス調査結果をもとにSWOT分析で課題抽出を行いアクションプランの作成に取り組みました。

参加者アンケートからは「分かりやすい講義でWLBについての理解が深まった。」「WLBはできるところから改善していかなければ…と感じた。」「病院事務部の参加もありより実現可能な取り組みになったと感じた。」等の声が寄せられました。ワークショップで抽出された課題とアクションプランは自施設で再検討を加え、現在プランに基づいて施設の取り組みがすすめられています。



分析結果とアクションプランを発表



SWOT分析中

ワークショップ参加施設を募集!!

秋田県看護協会では平成25年度WLBワークショップ参加施設の募集を行っております。

*インデックス調査はweb調査となりますのでご了承ください。

詳細については下記までお問い合わせください。

問合せ先 ● 秋田県看護協会
秋田県ナースセンター

Tel.018-832-8810 松橋

W・L・B推進ワークショップについて

看護職のワークライフバランス推進ワークショップは都道府県看護協会と日本看護協会が協働で「地域を主体に看護職のはたらきつづけられる職場づくりのための活動」を全国的に展開する初めての試みです。

平成22年度8都府県29施設で取り組まれ、23年度12府県・24年度は12県が新たに加わり32都府県225施設の医療機関で取り組まれています。

秋田県看護協会では本年度参加施設のフォローアップワークショップを平成25年2月5日に開催いたします。

みんなで
話そう

看護の出前授業

平成24年度は中学校4校、高校3校で実施し、365人の生徒が対象であった。授業内容としては、①命の大切さ、こころとからだの話 ②看護の仕事について ③看護師への道 ④簡単な看護技術について実践した。看護技術体験は体温・脈拍・血圧の測定をして普段の自分の体を知り、自分で健康管理することの大切さを説明している。

学校名	担当者施設	担当者名
北秋田市立阿仁中学校	北秋田市民病院	高橋聖子
大仙市立協和中学校	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター	日沼純子／澤田朱美
県立五城目高等学校	湖東総合病院	伊藤睦子／田村佳代子／小林裕子
県立西仙北高等学校	仙北組合総合病院	飛澤貴子
秋田和洋女子高等学校	中通総合病院	七尾恵美子
五城目町立五城目第一中学校	中通総合病院	工藤 純
由利本荘市立大内中学校	由利本荘看護学校	桑田恵美子

授業を終えて生徒の感想

大仙市立協和中学校の生徒 豊島沙耶香さん

お話を聞き、一番心に残っているのは「患者さんの様子をしっかりと観察する」ということです。顔色、目やくちびるの色など、見てみるのが原点だということを知り初めて知りました。そのほかにも、患者さんや病気の人だけではなく、心の病気の方の治療もすることを知りました。でも、その仕事の裏では、しっかりと勉強をしないといけないことも知りました。人の命を助ける仕事だからこそ、時には患者さんの死にも立ち会わなければならない。でも、そういうようなこともあるから、病気が回復して普通の病棟に移った患者さんを見ると看護師をやってよかったと感じるんだなあと思いました。血圧計で友だちの血圧を計るとき、友だちの脈の音を聞いて「命ってちっぽけだけど、ちゃんと生きている証拠なんだなあ」と思いました。



大仙市立協和中学校の生徒 佐々木康平さん

日沼さんや澤田さんから看護師はどういう職かということを知ることができました。看護師は患者に何かを与えるだけではなく、与えられる側だと言っていました。

自分が患者さんに元気を与えるじゃなく、病気を治そうと懸命に努力することに「元気」を貰うという意味でした。

このコメントを聞いて僕は心がとてもあたたかくなりました。

看護師は病気を治す手助けをするだけでなく、患者さんから「元気」を貰うことだと実感しました。



日本看護協会の中で課題となっている事項について、本協会の担当者が直接ブロックの会長達に説明し協議し合うことで会員の意見が吸い上げられ、看護協会の事業運営に活かされる。北海道・東北を1ブロックとして、1年毎に各県が担当県となるものである。平成24年度は秋田県が担当県であった。

開催日：平成24年10月25日(木)・26日(金)

会場：秋田ビューホテル

内容：[1日目] 法人会員会、懇親会
[2日目] 法人会員連絡会、地区別職能委員長会

参加者：下記の参加者と開催県協力員8名



日本看護協会(役員)

■会長	坂本 すが	■常任理事	小川 忍	■常任理事	福井 トシ子
■副会長	菊池 令子	■常任理事	洪 愛子	■常任理事	松月 みどり
■専務理事	井伊 久美子	■常任理事	齋藤 訓子		

都道府県看護協会

	会長	オブザーバー
■北海道	平山 妙子	常任理事 高橋 結子
■青森県	齋藤 文子	常務理事 山田 昌子
■岩手県	兼田 昭子	常務理事 山田 その江
■宮城県	上田 笑子	専務理事 千葉 はるみ
■秋田県	烏 トキエ	常務理事 福田 幸子
■山形県	川村 良子	常任理事 大竹 久子
■福島県	高橋 京子	専務理事 鈴木 ミドリ

職能委員長

■保健師職能	太田 敦子
■助産師職能	荒川 きよみ
■看護師職能	守屋 陽子



法人会員会議題

- 挨拶 ・開催県看護協会長 烏トキエ
- ・日本看護協会会長 坂本すが氏

1. 看護師特定能力認証制度の法制化推進について
2. 都道府県訪問看護ステーション連絡協議会等の強化について
3. 今後のナースセンター事業について
4. 『会員名簿管理体制の改善』新体制構築の検討について

法人会員連絡会議題

- 挨拶 ・開催県看護協会長 烏トキエ

1. 災害支援体制について：災害支援ナース・コーディネーターの育成等に関して
2. ナースセンター事業について：人材確保の工夫等について、事業の強化
3. 認定看護師：育成等に関して
4. その他

平成24年度 災害支援 ナース 育成講習会

- ◆平成24年9月14日(金) 9:30~15:30
- ◆開催場所:秋田県看護協会 5階 第一研修室
- ◆主催:秋田県看護協会・災害看護委員会
- ◆対象:秋田県災害支援ナース登録者及び日本看護協会・秋田県看護協会主催災害看護基礎編研修修了者50名
- ◆目的:看護専門職の災害時支援者として被災地や被災者に有効に機能できる能力を習得する

- ◆ねらい:
 - 1)災害支援ナースの活動の実際が想定できる
 - 2)災害支援ナース登録を目指す看護師を育成する。

内容

- ◆講義 災害支援ナースの役割と心構え 災害看護委員 越後谷和美
- ◆演習 グループワーク「災害支援ナースの派遣・活動の実際、トリアージ」
担当:木嶋しげ子、木村志保子、越後谷和美、小坂さおり、熊谷浩子

アンケート結果

- ◆参加者:59名 ◆回収:58名 ◆回収率98%
- ◆職種:保健師1名、助産師1名、看護師43名、准看護師4名、無記入 9名
- ◆年齢:25~29歳:8名、30~34歳:12名、35~39歳:16名、45~49歳:6名、50歳以上:8名
- ◆災害支援ナース登録者:12名 ◆災害支援ナース活動経験者:12名
- ◆今後災害支援ナースの登録を希望する:33名 希望しない:6名 無記入:19名



◆感想(アンケート一部抜粋)

- 実際被災地に行った人の体験談を聞いて支援ナースの重要性がよくわかった。何が出来るかを考えたとき、看護だけでなくできることは何でもやる、人の話を聞くだけでも必要なんだと思った。
- 今回は実際のリュックサックの中身、重さ、服装等を見て触れることができ、イメージがしやすくよかった。経験した人の体験談、アドバイスなども参考になりよかった。
- グループワークが主だったので段階を追って考えることが出来た。具体的に支援ナースとしての役割を学ぶことができた。
- 常に災害に備えた意識を持ち、自分が災害発生時どのように行動するか念頭に置き仕事をしたい。職場での防災訓練やトリアージについても職場スタッフにも伝達したい。
- 横のつながり、仲間意識を強くするためにも、集会(研修会)回数を増やしてほしい。
- グループワークの設問が漠然として話し合いが難しかった。

◆今後の企画への要望

- 岩手、宮城、福島 of 病院の看護師さんのお話をうかがえる場があれば参考にしたい。
- 活動時の写真や体験談などをもう少し取り入れてくれたらイメージしやすいと思う。

平成24年度 認定看護師 交流会

平成24年度担当代表
高橋加代子



日時 ■ 平成24年9月19日(水)
9:25~12:20

場所 ■ 秋田県看護センター 5階第一研修室

担当 ■ 高橋 加代子 (外旭川病院)
武田 美幸 (由利組合総合病院)
茂内 陽子 (山本組合総合病院)
富野 江里子 (外旭川病院)
佐藤 美夏子 (市立横手病院)

参加者 ■ 秋田県内の認定看護師32名

(救急看護1名、皮膚・排泄ケア11名、重症集中ケア1名、緩和ケア9名、がん化学療法3名、がん性疼痛1名、感染管理4名、新生児集中ケア1名、脳卒中リハビリテーション看護1名)

内容

情報提供 会長代理(宇佐美正子事業部長)

「看護を取り巻く状況と看護協会の動き」

事例検討

- ①事例1:緩和ケア分野 小林真紀さん (山本組合総合病院)
- ②事例2:皮膚・排泄ケア分野 菅原真奈美さん (平鹿総合病院)

グループワーク

発表 事例提供者からのコメント
認定看護師として各自の専門性を発揮し合ったアセスメントや、提供すべき看護について、分野の枠を超えたディスカッションが行われた。



結果

認定看護師として各自の専門性を発揮し合ったアセスメントや、提供すべき看護について、分野の枠を超えて熱いディスカッションが行われた。終了後のアンケートでは、大多数の参加者が、他部門との交流の機会になり、有意義な時間を過ごすことができたと評価した。

次年度認定看護師交流会担当者

- 五十嵐 孝 仙北組合総合病院
- 水野 住恵 秋田組合総合病院
- 井上 貴子 秋田赤十字病院
- 小松 恵智子 秋田赤十字病院
- 佐藤 由紀子 市立秋田総合病院

功労者表彰おめでとうございます。

平成24年10月24日(水)、秋田県庁正庁にて、平成24年度環境・保健事業功労者表彰式が行われました。



平成24年度 環境・保健事業 功労者表彰 受賞者

(順不同)

村上 照子	日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科教授
鎌田 順子	秋田組合総合病院 副院長
佐藤 田鶴子	由利組合総合病院 看護部長
荒川 きよみ	秋田組合総合病院 看護師長
大高 則子	山本組合総合病院 看護師長
三ヶ田 とし	かづの厚生病院 看護師長
近藤 昌子	山本組合総合病院 看護副部長
千葉 孝子	元秋田労災病院看護部 看護師長
菅原 美保子	秋田組合総合病院 看護師長
藤原 妙子	秋田赤十字病院 看護師長

平成25年度 改選役員及び推薦委員の 立候補並びに推薦について

平成26年度 日本看護協会代議員及び予備代議員の 立候補並びに推薦について

選挙管理委員会 からのお知らせ

平成25年6月19日(水)に開催される通常総会において、改選役員、推薦委員及び代議員等の選挙を実施いたしますので、立候補並びに受付期間などについてお知らせいたします。

I 改選役員数と役職名等

1. 役員

理事 12名(任期2年、※印の役員については補欠選挙となるため前任者の残任期1年)
副会長、書記、教育、保健師職能、助産師職能、鹿角、大館、北秋田、能代・山本、秋田臨海、
※由利本荘・にかほ、※横手

2. 推薦委員 3名(任期2年)

3. 代議員 8名(任期1年)

4. 予備代議員 8名(任期1年)

II 立候補受付期間

平成24年12月17日(月)
～平成25年2月28日(木)(必着)

III 立候補届出用紙

本会ホームページからダウンロードしてご使用ください。

IV 立候補届出先

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-6
公益社団法人 秋田県看護協会内
選挙管理委員会あて

推薦委員会 からのお知らせ

平成25年度改選役員、推薦委員及び平成26年度代議員等の候補者について、会員各位におかれましては、次の項目に該当する方を公募いたします。

1. 推薦基準

- (1) 秋田県看護協会の目的に沿って、組織を強化・発展させるよう実践できる人。
- (2) 秋田県看護協会事業に熱意を持って、共同できる人。
- (3) 本会の実情に合わせて、定例会に参加できる人。

2. 推薦方法

推薦用紙に記入し、郵送でお願いします。
(推薦用紙は本会ホームページからダウンロードしてご使用ください。)

3. 受付期間

平成24年12月17日(月)
～平成25年2月8日(金)(必着)

4. 改選役員数と役職名

1. 役員

理事12名(任期2年、※印の役員については補欠選挙となるため前任者の残任期1年)
副会長、書記、教育、保健師職能、助産師職能、鹿角、大館、北秋田、能代・山本、秋田臨海、※由利本荘・にかほ、※横手

2. 推薦委員 3名(任期2年)

3. 代議員 8名(任期1年)

4. 予備代議員 8名(任期1年)

5. 推薦書届出先

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-6
公益社団法人 秋田県看護協会内
推薦委員会あて

INFORMATION

看護制度委員会からの情報

看護師特定能力認証制度の法制化に向けて

—第2回医行為分類(案)及び教育内容等基準(案)に関する意見募集にかかる説明会より—

「チーム医療推進に関する検討会」(平成21年8月～平成22年3月)に於いて、日本の実情に即した医師と看護師等との協働・連携の在り方等について、有識者により検討が行われ、平成22年3月19日に報告書が厚労省から出された。

報告書に、「チーム医療の推進に資するよう看護師の役割を拡大する為には、看護師の実施可能な行為の拡大によって、能力を最大限に発揮できる環境を用意する必要」とある。

具体的には、「一定の医学的教育・実務経験を前提に専門的な臨床実践能力を有する特定看護師(仮称)が従来よりも幅広い医行為を実施できる新たな枠組みを構築する必要」

それを受けて、第13回チーム医療推進会議(平成24年8月22日)に於いて、特定の医行為を診療の補助として明確化し、厚生労働大臣が指定する研修機関の修了者が包括的指示を受けて特定の医行為を実施できる等とする方向で今後さらに議論を進めることとなっている。

第25回チーム医療推進の為の看護業務検討ワーキンググループ(平成24年8月30日)で具体的な医行為分類(案)及び教育内容等基準(案)を作成し関係学会等から幅広く意見を募集することとした。

日本看護協会ホームページ「看護師特定能力認証制度」もご覧ください。

※「チーム医療推進に関する検討会」とは厚生労働大臣の下に有識者で構成する検討会

事務局からの連絡・報告

看護協会ホームページが12月3日からリニューアルされました。秋田の美しい四季を背景に見やすく、検索しやすく、そして充実した内容になっております。スマートフォン専用サイトもありますので、ぜひアクセスしてみてください。

アドレス <http://www.akita-kango.or.jp/>

おかげ様で91,000枚
Since 1994 2012年9月末現在
ゴア®羽毛ふとんは
多くのお客様にご愛用いただいております。

Anniversary
おはようの未来へ

Amor
アモール
清潔・きれい・衛生
Bedding Products

好評発売中!

電位・温熱組合せ家庭用医療機器
Sawakōkō
さわここの
医療機器承認番号223ACBZX00082000

「電位モード」
頭痛
肩こり
不眠症
慢性便秘の緩解

「電位」と「温熱」
2つの治療で
心身の疲れに
効果を発揮!

「温熱モード」
電熱による温熱効果
・疲労回復・血行を良くする
・筋肉のこりを軽減
・神経痛・筋肉痛の痛みの緩解
・胃腸の働きを活性化

電磁波カット
99%で安心!

東洋羽毛北部販売(株)秋田営業所
〒010-0951
秋田市山王6丁目9-25山王SEビル5F

お気軽にお問い合わせください
0120-639601

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

編集後記

色鮮やかな紅葉の季節もすぎ、一步また一步と冬へ近づいています。我が家で聞かれる子供の歌も冬らしいものへと変わり、冬の訪れを感じます。

さて、広報委員会では、毎回活発な意見交換をしながら、看護あきたの内容の検討・看護協会ホームページの内容の充実等、様々なことに取り組んでいます。これからも皆様楽しんで頂けるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。ご意見・ご感想もお待ちしております。
(記・佐藤美紀)

看護あきた Vol.110 平成24年度 3号

Nursing Akita



発行日/平成24年12月20日

発行責任者/公益社団法人 秋田県看護協会 会長

発行所/公益社団法人 秋田県看護協会 秋田市千秋久保町6-6 Tel 018-834-0172

デザイン・制作/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577

印刷所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577